

平成19年度白老地域におけるアイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況

項目		平成19年度事業実施計画	平成19年度事業実施（検証）	平成20年度事業での方向性等（白老地域）
推進体制	推進体制	① 地域における事業の実施にあたっては、その内容に応じ適切な関係団体等に委託する。 ② 樹木や植物の植栽については、林野、土壌、有用植物等に関する専門機関、林業・農業改良普及員又は学芸員、アイヌ文化伝承活動実践者などの指導及び協力を得て実施する。	①平成18年度植栽箇所等の管理（巡視）、除草等及び平成19年度の植栽、試験栽培（森野地区）について、白老アイヌ民族博物館に委託し、実施した。 ②樹木や植物の植栽について、学芸員等の協力を得て、実施した。	・しらおいイオル事務所チキサニを中心に、支部、博物館、役場等の関係機関が一体となった組織の設立を検討する。 ・地域における事業は、事業の内容に応じ、適切な団体等に委託し、実施する。
	植栽地区	アイヌの人々が伝統文化活動を行う際に必要となる自然素材を将来的に確保するため、平成18年度の成果等を踏まえながら、ポロト自然休養林、陣屋及びヨコストの3地区において、春植えを始めとする植栽を実施し、将来的な採取及び採捕空間の整備を図る。植栽にあたっては、植栽した樹木等が生育した際、自生状態に近いものとなるよう配慮するとともに、周辺も含めた自然環境の復元を目指す。	・陣屋地区については、ガマ（900株）、フトイ（100株）、ミクリ（100株）の植栽、ハマボウフウの種まきを行ったほか、18年度植栽地区についての適時管理（巡視）を行った。	・ポロト自然休養林地区については、林野庁の制度（イオルの森づくり活動に関する協定）の枠組みの中で、平成18年度に植栽した自然素材の維持管理を行い、体験交流事業や伝承者育成事業等の活動に利活用する。 ・ヨコスト地区については、植栽地区から試験栽培地区に枠組みを変更する。
イオルの森の形成	試験栽培地区	アイヌの人々が伝統文化活動を行う際に必要となる自然素材の安定的な確保に向けて、平成18年度の成果等を踏まえながら、ポロト及び森野旧苗畑地区において試験栽培を実施し、育成のための手法等の確立を図る。	・森野地区において、アワ、キビ、ヒエそれぞれ24列を作付するとともに、苗木15種520本を植栽した。 ・また、薬用植物17種515株について、山採りし、同地区に移植した。	・森野地区、ヨコスト地区において、試験栽培を実施する。 ・収穫物を伝承者育成事業、体験交流事業で活用するほか、他地域の伝承活動へ提供する。
	自然素材採取地区の設定	植栽地区において、自然素材が確保できる環境が整うまでには、なお数十年の期間を要することから、イオルの森の空間としてのスケールを確保し、アイヌの人々が一定のルールに則り、自由に採取、採捕が行えるようにするため、竹浦、石山及び社台の3地区7ヶ所を自然素材採取地区として設定する。	・町内の竹浦、石山地区等7箇所を素材供給ゾーンとして位置付けた。	・平成19年度調査済区域において、「採取及び植栽に関する要綱」に基づき、採取・植栽を実施する。…A-2地区（竹浦防風林地区）、A-4地区（石山牧場地区）
	採取と植栽の循環	イオルの森において、アイヌの人々が将来に渡り継続して自然素材の確保が可能となるよう、自然素材の採取と植栽の循環の確立を図るものとする。このため、自然素材採取地区において、踏査等により自然素材の現存量を把握した上で、イオルの森を舞台に行われる具体的な採取や採捕等の活動も踏まえ、自然素材の枯渇を招くことがないよう素材の自然回復や試験栽培地からの移植を考慮しつつ、長期的観点からの循環と採取の確立に向けたルールを策定する。	・素材供給ゾーンとして位置付けをした町内7地区のうち、竹浦、石山地区に現存するアイヌの有用植物の分布状況や成育状況を把握するための現況調査を実施するとともに、「自然素材の採取及び植栽に関する要綱」を策定した。	・試験栽培している苗木の素材供給ゾーンへの移植を調査、検討する。

平成19年度白老地域におけるアイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況

項目	平成19年度事業実施計画	平成19年度事業実施（検証）	平成20年度事業での方向性等（白老地域）
アイヌの伝統文化ライブラリーの構築	<p>アイヌの伝統・文化を取り巻く環境は、白老地域においても伝承者の高齢化等が進み大変厳しい状況が続いている。このため、環境の変化に影響を受けにくい機関（博物館等）を核として、白老地域のアイヌの人々の協力の下、伝統文化の保存・伝承活動の現状や意向等に関する情報を体系的に整理し、この情報を「白老地域におけるアイヌの伝統文化のライブラリー（電子情報）」として構築する。構築されたライブラリーについては、イオルの森を舞台にアイヌの伝統・文化の保存・伝承を実践的に行う人々への参考に供するほか、自然素材の確保に当たっての基礎資料としても活用する。さらに、他地域においても、博物館等の連携の下で活用できるような取り組みを進める。</p>	<p>・白老地域におけるアイヌの伝統・文化に関する知識や実践する伝承者等の情報を集積し、ライブラリーとして、アイヌの伝統的生活空間における実践的な伝承活動等に活用することとした。</p>	<p>・集積した情報をアイヌ文化の実践的な伝承活動等に活用する。</p>
イオルの森において行われる伝承活動への支援	<p>アイヌの人々は、イオルの森が形成されることにより、植物やサケ等の自然素材の採取又は採捕から、利用、加工、調製、保存等までの一連の工程を実践的に行うことが可能となる。こうした主体的な伝承活動を支援するため、イオルの森を舞台に上記ライブラリーを重点的に活用する仕組みを構築し、伝承活動等に関する実践的な講座を開催するなど、次代のアイヌの伝統文化を担う人材の育成に寄与する。また、これらの活動成果についてもライブラリーに登録し情報の充実化を図るほか、実践的な伝承活動を行う人々には、体験交流を始めとする各種事業にも参画をいただき、地域全体で連携した取り組みを進める。</p>	<p>①平成18年度植栽箇所等の管理（巡回）、除草等及び平成19年度の植栽、試験栽培（森野地区）について、白老アイヌ民族博物館に委託し、実施した。 ②樹木や植物の植栽について、学芸員等の協力を得て、実施した。</p>	<p>・体験交流事業において平成19年度に養成した指導者の活用を図るとともに、引き続き養成事業を実施する。 ・また、ライブラリーを活用する仕組みの構築について検討する。</p>
イオルの森において行われる体験交流事業への支援	<p>体験交流事業については、イオルの森を舞台に実践的な伝承活動等と連携しながら、アイヌの人々の意向等を十分に踏まえ取り組んでいく必要がある。このため、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、白老町、アイヌ伝統文化関連団体からなる体験交流事業を促進するための協議会を設置し、事業の実施に向けた体制整備や調査検討を進めた上で交流事業を試行的に実施する。</p>	<p>・白老イオル体験交流事業推進協議会を組織し、アイヌ民族の漁文化と自然との関わり学習事業として、小学生を対象とした海の体験交流事業を実施した。</p>	<p>・白老イオル体験交流事業推進協議会が小学生等を対象とした体験交流事業を実施する。</p>
コタンの再生に向けた調査	<p>平成18年度に実施した空間活用調査の結果を踏まえ、白老地域におけるアイヌの伝統的生活空間の核となるポロト湖畔周辺地域において、アイヌの人々がイオルの森から採取、採捕した自然素材を活用した伝承活動等を行うコタンの再生に向けて、土地利用や必要な設備、施設等に関する調査を実施する。</p>	<p>・ポロト湖畔の土地利用計画を策定し、土地利用や必要な設備・機能を整理した。</p>	<p>・白老地区土地利用計画を参考に、効果的な事業が実施できるコタンの再現に向けて、調査検討、設計、整備を実施する。</p>

平成19年度白老地域におけるアイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況

項目	平成19年度事業実施計画	平成19年度事業実施（検証）	平成20年度事業での方向性等（白老地域）
その他	水産動物の採捕や鳥獣等の捕獲、国有林野内での植栽、河川区域内の行為などに関する規制緩和や許可に関し、アイヌの人々の意向等を踏まえつつ、有効な措置等についての検討を進める。	・イオルネットワーク会議において、現状と課題について情報収集・意見交換を行った。	・実現までには時日を要することが予想される事柄であることから、継続的な検討が必要である。
イオルの森の運営管理体制の整備	空間を効果的に活用するため、イオルの森における自然素材の採取又は採捕ルールやアイヌの人々の活動に関する意向等を踏まえ、空間の利用や維持管理等に関するルールを策定するとともに、平成20年度からの試行的運用開始に向け、アイヌの人々が中心となって運営管理を行う体制の検討・整備を行う。このため、既存の設備・施設を活用した事務スペースを確保し、地域における事業拠点として推進管理を行う。	・アイヌの人々が中心となった運営管理を進めるため、アイヌ文化活動や情報発信の拠点となる白老イオル事務所を、既存施設の活用により設置した。	・しらおいイオル事務所チキサニを中心に、支部、博物館、役場等の関係機関が一体となった組織の設立を検討する。
イオルの森ネットワーク形成に向けた検討	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、関係機関等と連携し、学識経験者やアイヌ伝承活動実践者の意見も踏まえつつ、イオルの森のネットワークの形成に向けての地域特性や機能分担などについての検討を行う。	・イオルネットワーク会議において、現状と課題について情報収集・意見交換を行った。	・イオルネットワーク会議において、現状と課題について情報収集・意見交換を行うとともに、具体的な検討を進める。